

令和6年度

川崎市立有馬中学校  
第2回進路説明会資料



令和6年9月25日（水）

## 1. 今後の進路日程

10月	第2回進路希望調査（9月） 4日～10日 三者面談 26日 文化祭 29日～11月1日 進路面談（希望制）	○受検用写真を学校で撮影する ○進路面談を行って、志望校（公私とも）を深く考える。
11月	2日 たまかん祭 7日～11日 3年後期中間テスト 第3回進路希望調査	○自分の実力の伸長度を判断する。 <u>○私立高校願書・推薦書などを入手する。</u>
12月	2日～6日 進路面談 15日～ 私立入試相談開始  25日～1月7日 冬休み	<u>○私立高校の推薦、併願の受験校を決定する。</u> ○可否の可能性を高校側と中学側とが確認する。（私立高校推薦、専願、併願） ○面接について学習する ○冬休みの過ごし方について考える。
1月	就職試験開始 中旬頃 私立推薦入試出願 下旬頃 私立推薦入試面接 発表 推薦後 私立一般入試出願 23日～29日 公立高校共通選抜募集（インターネット）	○受験（検）料納付 ○模擬面接 ○公立高校「志願の手引き」によって、出願から入学までの手続きを確認する。
2月	3日～4日 学年末テスト 4日～6日 公立高校共通選抜志願変更 10頃～ 私立一般入試学力検査、面接 10頃～ 私立一般入試合格発表 14日 公立高校共通選抜学力検査 14日～19日 共通選抜特色検査等 20日 公立高校共通選抜追検査 28日 公立高校共通選抜合格発表	○義務教育最後の定期テストの準備をする。 ○学力検査に向けてしっかりと準備をする。 ○進路が決まった人はまだの人のことを考え、最後まで学習を続ける態度を崩さない。 ○インフルエンザなどで学力検査が受検できなかった場合等の検査。 ○公立高校合格後の入学辞退はしない。 ○私立併願校への手続き（入学または辞退）
3月	4日～5日 公立高校全日制二次募集 6日～7日 公立高校定通分割選抜募集 6日～7日 公立高校全日制二次募集志願変更 10日～11日 公立高校定通分割選抜志願変更 11日 公立高校全日制二次募集学力検査・特色検査 14日 公立高校全日制二次募集合格発表 17日 公立高校定通分割選抜学力検査 18日 公立高校定通分割選抜特色検査 21日 公立高校定通分割選抜合格発表	○公立高校の二次募集の実施は未定（欠員が出た高校のみ） ○公立高校全日制二次募集と定通分割選抜への同時志願は可能。（定通分割とは定時制と通信制の募集を全日制とは別日程で行うものです。） ○二次募集と分割選抜に同時志願して、2次募集に合格したら、直ちに分割選抜は志願取り消しをする。

## 2. 就職について

先日「ハローワーク」(川崎北職業安定所)から求人票が届きました。就職活動はもう始まっています。進学を希望していたものの、就職に変更したい、あるいは定時制への進学に当たって、就職を希望していなかったが、やはり就職をしたい、というように希望に変更があった場合、すぐに申し出てください。中卒の求人数は少なくなっています。

## 3. 公立高校入学選抜制度について

### ・志願資格

神奈川県内の公立高校を志願する資格については下記のようになっています。

1. 中学校を令和7年3月31日までに卒業する見込みの者。
2. 本人および保護者が県内に住所を有する者。

なんらかの事情で保護者または本人の住民登録が神奈川県内にない場合(川崎市立高校の場合は川崎市内にない場合)は、中学校は特別な書類を教育委員会に提出しなければならない場合があります。該当する人は11月の面談までに担任に必ず申し出てください。

### ○二次募集

\*二次募集は欠員がでた高校のみ行うので、現時点ではどの高校が行うかわかりません。

\*二次募集に出願できるのは~~公立高校、私立高校、高等専門学校、特別支援学校のいずれにも合格していない者~~のみです。私立高校公立高校を問わず、これらの学校に合格した時点で公立の二次募集(定通分割選抜を含む)に出願する資格はありません。たとえ、合格した高校の入学を辞退しても同様です。

### ・公立高校の出願について

公立高校の出願が、昨年度からインターネット出願になりました。出願や志願変更の方法は11月頃にお知らせする予定です。なお、11月には練習用のサイトの稼働を予定しています。

### ・公立高校選抜の方法(学校・学科によって違う場合もあります)

#### ・調査書の学習の記録

2年後期の9教科の評定合計+3年12月の9教科の評定合計×2=135点満点とし、135点を100点に換算。

#### ・学力検査 100点×5教科=500点満点とし、500点を100点に換算

#### ・各高等学校で定めた比率に基づき合計数値を算出する。

この合計数値で合格者の90%を決定する[第1次選考]

残りの定員の10%は「主体的に学習に取り組む態度」の評価と学力検査の結果をもとに定められた数値算出方法で選考されます。[第2次選考]

一部の高校では面接、特色検査が行われます。(面接)

### ・公立高校の合格発表

WEBでの発表です。発表後、合格者のみ高等学校に出向き、書類を受領し、中学校に報告をしてもらいます。不合格者のご家庭には高等学校から学力検査の結果等が送付されます。例年受領を拒否されるご家庭があるようですが、必ず受領して下さい。

## 4. 私立高校について

私立高校は多種多様であり、その高校の特徴や教育方針など、全てよく理解してから希望して下さい。学校紹介やパンフレットを読み、また各高校とも学校見学や体験入学の機会を設けていますのでその行事に参加し、よく知った上で選択することが重要です。(説明会参加は予約制がほとんどです)私立高校は選抜方法もそれぞれであって、各高校とも自分の学校により適した生徒を望んでいます。どの高校もまず人間性を重視し、きちんとした生活習慣が身についているかどうか、確認されることが多いようです。推薦入試や併願などでは成績のみならず、欠席日数や遅刻回数などの条件があります。

### ・推薦入試

多くの私立高校で、実施されています。第一希望でその高校だけを受験し、合格したら必ずその学校に入学すること前提として受験する制度です。原則として学科試験を行わないで、調査書・中学校長の推薦書・面接試験、作文などで合否が決定します。一部の高校では適性検査を行う推薦入試もあります。

推薦入試はその名のとおり中学校長の推薦が必要な入試です。また、その高校の推薦入試の受験を希望する場合は、私立高校の入試相談の必要があります。この相談期間終了後では定められた期間に相談ができないと、願書締め切り前でも受験は原則的に不可能です。また、推薦入試の基準に達して入試相談を行い、私立高校の承諾が得られた場合、ほとんどの志願者が合格する高校と、基準はあくまで応募の基準にすぎず、合格率の低い推薦入試があります。

### ・専願(単願、第一志望)制度

一般受験と同じ日に面接と試験を行います。その高校を第一志望とし、合格したならば必ずその高校に入学することになります。推薦入試と同様に基準があり、入試相談をしなければなりません。また、かなりの確率で合格する専願、単願制度と第一志望制度という名で、入試の点に何割か上乗せをしてくれるだけの学校があります。いずれにせよ入試相談が必要です。

### ・併願制度

公立高校を第一希望にしている生徒がその私立高校を第二希望として受験する制度です。そのため公立高校の合格発表まで入学金などの一部または全額の延納を認めてくれます。(入学金は全額もしくは一部を支払わなければならない高校も少数ですがあります。)公立高校が不合格の場合はこの高校に入学することになります。全ての高校にこの制度があるわけではないので注意が必要です。同じ高校でも推薦よりは基準が高くなることが多いのですが、一般受験よりは、合格の可能性はずっと高くなります。12月の進路面談で担任と話し合って決定し受験することになりますが、100%合格が保障されるわけではありません。入試で極端に点数が悪かった場合や、面接点が悪かったりすると、不合格になることもあります。一方で、入試の点数に多少上乗せしてくれるだけの高校もあり、当然合格率は低くなります。

私立併願制度のある高校もあります。第一希望は他の私立高校ですが、その高校に不合格だった場合は入学することが条件になります。いっぽうで、私立併願制度がない高校もありますので、説明会などで確認をしてください。

### ・一般受験

特に事前の基準などはなく、当日の入試の結果(学科、面接など)によって合否が判断されます。合否の予想は難しく、あくまで当日の入試によります。日程の条件さえ合えば何校でも受験できます。

## ・推薦制度、専願（単願）制度、併願制度の条件

- ①その高校への明確な進学意識を持っていること。第一志望（併願の場合は第二志望）であること。
- ②志望する高校の様子をよく理解していること。説明会に参加すること。  
教育方針やカリキュラム等をよく理解しておく必要があります。
- ③出身中学校長の推薦を受けた生徒。
- ④当該高校の教育を受けるにふさわしい資質を有すること。学力的な基準を満たすこと。
- ⑥上記の基準を満たし、事前の中学校と高校の間で行われる入試相談で承認を得た生徒。

### \*学力的基準の例

推薦入試 国語、数学、英語の3教科評定合計が11 かつ 9教科の評定合計が32  
3年次の欠席が10日以内  
加点項目 英検準2級以上を英語の評定に1点加点する。

併願優遇 国語、数学、英語の3教科評定合計が12 かつ 9教科評定合計が36  
3年生での欠席が10日以内  
加点項目 英検準2級以上を英語の評定に1点加点する。

## ・その他の注意

- ①私立の推薦、併願の入試相談後は変更ができません。また、推薦で合格したのに入学をしないなどということもないようにしてください。
- ②インフルエンザ等に感染し発症して入学試験を受けられなかった受験生に対し、予備日程をもうける高校（予備日程があるかどうかは高校に問い合わせてください）があります。この場合医師の診断書が必要となる場合があります。
- ③近年、私立高校 web 出願がほとんどです。web 出願で注意しておかなければならないことをあげておきます。
  1. 御自身のデータ（住所・氏名等）を入力する際の入力ミスや、クリックミスにくれぐれもご注意ください。
  2. WEB 出願後、担任から調査書の入った封筒を生徒に渡します。高校へ郵送または持参はご家庭で忘れずに行ってください。
- ④私立の受験校については担任とよく確認をして下さい。

## 5. 主な高校受験パターン

- A 公立のみ
- B 公立第一志望、私立第二志望
  1. 公立－私立併願
  2. 公立－私立一般－私立併願
- C 私立第一志望（私立一本）
  1. 私立推薦
  2. 私立専願
  3. 私立一般－私立併願
- D 私立第一志望－公立第二志望
  1. 私立一般－公立

A 公立のみ

公立しか受検しないパターンです。病気やけがで受験できなくなることもあり得るので、できれば避けて欲しいパターンです。共通選抜で不合格だった場合、定時制や通信制の分割選抜を受検することになります。公立の2次募集もありますが、どの高校で2次募集があるかわかりません。

B 公立第一志望－私立第二志望

公立が第一志望で第二志望の私立高校を受験するパターンです。公立高校第一希望の人はなるべくこのパターンが安心だと思います。私立高校の受験パターンとしては併願、一般の二つが考えられます。

C 私立第一志望（私立のみ）

私立高校しか受検しないパターンです。推薦、専願、一般の受験パターンが考えられます。

D 私立第一志望－公立第二志望

私立高校が第一志望ですが、私立の第一志望が不合格だった時のことを考えて公立高校を受検するパターンです。私立高校は専願制度がないところを受検するときに使うパターンです。私立高校は日程の違う複数の高校を受けるのが一般的で、私立併願のある高校を受験することもあります。志望の私立高校に合格した場合、公立高校は志願取り消しをします。

\*私立高校は一般受験を利用するのであれば日程の条件さえ合えば何校でも受験できますが、実際に入学する意志のある高校を受験して欲しいと思います。

\*学費支援や奨学金などの制度もあります。年収やご家庭の状況などの条件はありますが、詳細については担任までお問い合わせください。